

時代に即した
選挙制度を
目指して

PROFILE

Arai Yoko

平成21年10月	総務省採用 自治行政局行政課総務室
平成22年1月	自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
平成23年10月	福岡県企画・地域振興部市町村支援課
平成25年10月	地方公務員災害補償基金補償課
平成27年4月	自治行政局選挙部選挙課
10月	現職

自治行政局選挙部
選挙課主査

荒居 陽子

平成21年入省

とある
一週間

月曜日

今週末開催の選挙関係の審議会に向け、使用する資料の原案を作成します。

火曜日

国会での質問への対応発生。必要な資料を、正確かつ迅速に準備します。

水曜日

議員事務所からの電話説明要求。慎重に調べて対応します。

木曜日

翌日開催の審議会で出席者に配布する資料セットを準備します。

金曜日

いよいよ審議会の開催日。滞りなく進み、ひとまず安心。

70年ぶりの選挙権年齢引き下げ！

選挙は、国民の皆さんが政治に参加するための重要なシステムです。

昨年、その選挙制度に大きな改正がありました。1つは、少子高齢化社会の日本の未来を担う10代に、もっと政治に参画してもらうため、選挙権年齢が18歳に引き下げられたこと。もう1つは、いわゆる「1票の較差」を縮めるため、参議院選挙区選挙の選挙区に、2県合同の選挙区（鳥取県と島根県、徳島県と高知県）ができたことです。どちらの改正も、日本の現状や将来予測を踏まえ、国民の皆さんの意思が、国政や地方政治に的確に反映されるためになされたものです。よりよい選挙制度改革は日本の未来につながることであり、ほんの少しでも、そのお手伝いができているのかな、と思っています。

また、新制度はもちろん、現行制度の説明・解釈を通じ選挙に携わる方々（全国の選挙管理委員会や議員・候補者サイド等）をバックアップすることも重要な仕事であり、責任と同時にやりがいを感じています。

様々なフィールドで、人とのつながりを大切に。

総務省では、本省勤務以外にも、様々な場所で仕事の機会が与えられます。特に、地方自治を考える上で、地方の現場を知ることとはとても大事なことです。総務省では若手のうちから地方自治体に出向し、地方の現場を勉強できます。私も、2年間、福岡県にお世話になりました。他にも、関係団体で公務災害認定業務に携わり、本省以外のフィールドで勤務経験し、視野も広がったように思います。

また、私が福岡県出向時に知り合った方々とは、今でも交流が続いています。一方、総務省にも全国の自治体から出向されている方々が多く、「地元を元気にしたい！」という気概を持った方々と一緒に仕事をするのは刺激になりますし、お酒を飲みながら地元トークに花を咲かせ、地方の現状に触れることもできます。このように、単に仕事をするだけでなく、全国規模で人とつながりを持つことは、総務省だからこそ得られる財産です。

あなたも、総務省と一緒に働きませんか？



Private Time

休日は、大好きな野球観戦に行ったり、演劇を鑑賞したり、一眼レフカメラを携えて素敵な風景を探しに行き、写真に収めたりと、趣味の時間を大事にしています。先日は、初めて大相撲観戦に行き、テレビで見る以上の迫力に感激！週末に好きなことをしてしっかりリフレッシュすることで、また次の1週間もがんばろう！と思えます。